



テレビで観察した結果五文字確認でき、そのうち下部の「米五斗」の文字が判読された。文字内容からこの木簡は、米の移動に伴う付札木簡と推測される。

なお、木簡釈文の作成およびその内容については、国立歴史民俗博物館平川南氏から多大のご教示を得た。

9 関係文献

大谷弘幸・笹生 衛「関東地方の条里」『考古学ジャーナル』三一〇 一九八九年

(大谷弘幸)

小敷田遺跡(埼玉県行田市) 出土の出挙関係木簡

小敷田遺跡出土の第二号木簡(本誌第七号に報告)のうち、これまで判読できなかった五文字が、保存処理後の赤外線カメラ装置による撮影の結果新たに解読されたと、一九九〇年一月九日、埼玉県が発表した。新釈文は次の通り。

・「九月七日五百廿六^(次カ)四百^(三カ)」

・「卅六次四百八束并千^(三カ)百七十

小稲二千五十五束

168×22×2 011

本木簡は、これまで稲の収支決算の額を記したものでらしいとされてきたが、今回裏面の二〇五五束が表から裏にかけての合計額一三七〇束のちょうど五割増の数値であることが判明したことによって、日本最古級の出挙の記録であると推定されるようになった。

なお、小敷田遺跡の発掘調査報告書『小敷田遺跡』が刊行された。木簡についての報告も収録されている。

B5判(三分冊) 本文計七八七頁 図版計三〇四枚

付図一枚

頒価六〇〇〇円・送料九三〇円

申込先 〒三三三〇 埼玉県大宮市東大成二一五五七一五

埼玉県埋蔵文化財調査事業団大宮整理室内

埼玉県考古学会 宛

TEL 〇四八―六五二―二三三一